

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成30年1月23日発行

第33号

編集発行 鈴木史良

心に響くパイプオルガン

—— 伝統あるウスター教会を訪問して ——

1月19日(金)の午後、児童生徒全員で、ウスター教会のパイプオルガン見学に行きました。パイプオルガンについて説明してくれたのは、シュテファンさん。とても丁寧に、知っている日本語を交えながらパイプオルガンについて説明をしてくださいました。

ウスター教会ができたのは、1824年。なんと、今年で194歳になります。ちなみに、パイプオルガンは55歳だそうです。ウスター教会のパイプオルガンには、4000本ものパイプが使われており、様々な音色を奏でることができます。62種類もの楽器の音を出すことができます。

演奏する場所まで行くと、子どもたちにパイプオルガンの鍵盤を触らせてくれました。何人かの子どもが鍵盤を押しても、スイッチが入っているはずなのに音が鳴りません。その後、パイプオルガンの音の出る仕組みや音の出し方を教えてもらいました。子どもたち全員がパイプオルガンを弾くことができ、その音が教会中に響き渡りました。シュテファンさんの流れるような演奏には、自然と拍手が沸き起こりました。

次は、ウスター教会の時計がある尖塔へと向かいました。普段は人が入れない秘密の塔です。中に入り、細い木の階段を上ると、パイプオルガンに空気を送り込む装置、鐘を鳴らす装置、時計を動かしている装置など、普通では見る事ができないものがたくさんありました。貴重な体験ができたと思います。

今回の見学で、パイプオルガンという楽器のこと、ウスターの地で学んでいる私たちにとって身近な存在であるウスター教会について深く知ることができました。とても良い学習になったと感じています。講師のシュテファンさんや通訳で来ていただいた中山さんに感謝いたします。(清水諭 教頭 記)



説明に聞き入る子どもたち



パイプオルガンを初めて体験



パイプオルガンをバックに

シーメンス (SIEMENS) を見学して

1月18日(木)に、5年生が社会科の校外学習として、シーメンスという会社を訪問しました。シーメンスはドイツのバイエルン州ミュンヘンに本社を置く世界的な企業です。もともと電信、電車、電子機器の製造から発展し、現在では情報通信、交通、医療など、幅広い分野で活動しています。5年生が見学したのは、ヴァリセレンにある施設で、主に鉄道関係の仕事が中心です。

本校では、シーメンスのご厚意で毎年、小学部高学年が社会科見学させていただいています。今回は、コンピューターを使ったプログラミング学習ができました。子どもたちは帰校後、さっそくお礼状を書きました。当日案内して下さったシーメンスの方(日本語がわかる)に直接読んでいただけるように、子どもたちはやさしい日本語で書いたり、漢字には読みがなをふったりと、相手への配慮ができていました。

<子どもたちによる礼状>

- ふみきりせいぎょそうちのことやポイント切りかえのことをおしえてくださってありがとうございます。わたしははじめてプログラミングをしました。前からやってみたく思っていたので、とてもうれしかったです。スクリーンで見たスマホのアプリ、とてもおもしろそうでした。私もそのアプリを使ってみたくです。SIEMENSのみなさん、ありがとうございました。(5年生女子)
- SIEMENSのことや電車関連のことについて、いろいろおしえていただきありがとうございます。心に残ったところは、チケットを自動でこう入できるアプリがあることです。いちばん安いチケットをこう入してくれるのは便利だなと思いました。もう一つはプログラミングです。おもしろかったので、家で父に無理やりたのんでダウンロードしてもらいました。使いこなせなかったけれど、楽しかったです。ありがとうございました(5年生男子)
- SIEMENSの会社のなかを説明していただき、ありがとうございます。ぼくは、SIEMENSに行く前、電車のしくみがよくわからなかったけれど、行ってよくわかりました。とくにおもしろかったのは、小人のしくみです。なぜなら、色が変わるだけで、とくに決まった意味はないと思っていたけれど、実際はとても重要だったことがわかりました。今開発中のアプリをぜひ完成させてください。ありがとうございました。(5年生男子)
- 今回は私たちのために、ふみきりせいぎょそうちをつくらせていただいて、ありがとうございました。とっても楽しかったので、もっとやりたかったなと思いました。フィアッツさんのおかげで、なにかをつくるのが楽しくなりました。来年も行けたらいいと思います。(5年生女子)



信号機のしくみに驚きの目



プログラミングに挑戦!